

【メールマガジン～近畿運輸局公共交通だより】
2017年12月5日配信（No. 51号）

本メールは、公共交通政策全般について皆様に広く関心を持って頂くため、国土交通省総合政策局公共交通政策部が作成した全国の情報に、近畿運輸局において主に近畿地方の情報を加えて編集し、情報発信するものです。

☆☆☆ご意見・情報がありましたら、以下までお寄せ下さい。☆☆☆

★★★ご意見や情報、メールアドレスの変更はこちらへ★★★

<mailto:kkt-kinki-kikakuka@ml.mlit.go.jp>

なお、本メールの配信停止を希望される方は、上記アドレスまで「配信停止」と記入のうえお知らせください。また、本メールは出典を明記のうえで、関係者の方々に回覧・転送していただいても結構です。

※関係団体の皆様におかれましては、関係交通事業者あてに転送くださると幸いです。

- 「地域公共交通（近畿ブロック）研修」を開催しました。
(近畿運輸局)
- 「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2017」が開催され、公共交通政策部が参加しました。
(総合政策局 公共交通政策部 交通計画課)
- 「地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム 2017 in 九州」
「地域公共交通活性化セミナー2017 in 福岡」を開催しました。
(九州運輸局)
- 「地域公共交通シンポジウム in 中部」を開催しました。
(中部運輸局)
- 12月11日に「トークライブ 鉄道が地域の未来を明るくするために」が開催されます。
(名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター)

○12月15日に「地域公共交通シンポジウム in 四国～ みんなで考えよう
地域公共交通の未来 ～」を開催します！

(四国運輸局)

<掲示板>

- ☆ 地域公共交通支援センターについて
- ☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について



「地域公共交通（近畿ブロック）研修」を開催しました。

（近畿運輸局）

11月14日に自治体職員38名・運輸局職員5名を対象に「地域公共交通（近畿ブロック）研修」を開催いたしました。

人口減少・高齢化の進展に加えて運転手不足が深刻になる中、地域公共交通ネットワークを維持・改善するためには、行政・交通事業者・住民などの関係者が、課題や目標を共有し、各主体が連携することが重要です。

今回の研修は、「地方公共団体と交通事業者との連携」の必要性について理解を深めるとともに、各地域が抱える課題解決のヒントをつかんでいただくことを目的として開催いたしました。

「国の取組について」

安江 亮 （近畿運輸局交通政策部交通企画課長）

公共交通に係る国の政策の動向を紹介するとともに、ネットワークの効率性の向上・生産性の向上・需要の創造・地域の参画など、交通ネットワークを考えるうえでの視点について、具体的なイメージを交えながら説明しました。

視点:こんなことを考えながら…

- 皆さんの地域が目指す「まち」の姿はどのようなものですか？
- 「まち」の中で公共交通が果たす役割とはどのようなものですか？
- 公共交通について、誰と、どのくらい話をしていますか？
- 「課題」の範囲、「関係者」の範囲、「自分たちの役割」の範囲を狭めていませんか？

「地域公共交通網形成計画策定までの取組と今後の方針」

坂部 直成 氏 （南海りんかんバス(株)取締役社長）

坂口 義治 氏 （橋本市総務部総務課主幹）

橋本市では、民間路線バスと病院送迎バスの競合などの様々な課題がありましたが、粘り強く関係者間で合意形成を進め、本年3月に地域公共交通網形成計画の策定に至りました。

行政・交通事業者の視点から、「どのような考え方のもとで、どのように合意形成を進めたのか」について、紹介いただきました。



「交通事業者と行政が考える公共交通」

平尾 輝樹 氏 （京阪バス(株)経営企画室課長）

濱口 敏男 氏 （寝屋川市まち建設部道路交通課係長）

寝屋川市では、平成30年度の地域公共交通網形成計画策定を目指して調査・検討を進めており、近畿運輸局においても「地域連携サポートプラン」協定を締結して、課題解決のお手伝いをしているところです。

お二人からは、「行政・交通事業者が考えている課題」・「交通事業者が行政に求めていること」などについて、紹介いただきました。



パネルディスカッション

コーディネーター：猪井 博登 氏（大阪大学大学院工学研究科助教）

橋本市・寝屋川市の事例紹介を振り返りながら、「運輸支局に期待する役割」「住民ニーズへの対応のあり方」などについて考察しました。

住民のニーズをどのように反映するかを考えることは、どのような地域社会を目指すかを考えることにもつながり、すぐに結論が出るものではないため、関係者間で知恵を絞って、段階的に取組を進めることが重要である旨を共有することができました。



課題討議・発表

研修員は5つの班に分かれ、事前に用意した地域公共交通の課題等について、班内で発表しました。その上で、各班一つの地域を選定して、当該地域の課題解決策・実現に向けての問題点・期待される効果などについて深く議論をしました。

各班の発表に対する質疑応答の時間では、「何をもちて効率的というのか?」「なぜ無償バスの有償化ができないのか?」「再編に取り組むプロセスは?」「どんな仮説をもちてアンケートをするのか?」「利用促進の効果検証は?」「住民をどのように巻き込むのか?」など、たくさんのすどい質問があり、様々な視点で地域公共交通の課題解決のあり方を検討・共有することができました。



また、これまでの熱い議論を踏まえ、研修参加者全員が「明日から自分が取り組むこと」について発表しました。「全ての補助対象路線に乗りして、地域の現状を把握する!」「まずは、自分が公共交通に乗る!」「ICカードを持っていないので買う!」「課内勉強会を開催する!」「地域の潤滑油になる!」など、力強く宣誓しました!

今後、この日の熱き(!?)思いを忘れることがないように、研修員には上記の宣誓が定期的にメールで届く予定となっております。

最後に、大阪大学 猪井先生、柏研修センター 白崎教授より研修内容を振り返りながら、実践的なアドバイスをいただきました。

研修後のアンケートでは、「他の自治体担当者と話すことができ有意義であった。」「交通事業者の本音を聞いて参考になった。」など好意的な意見をいただき、一安心しているところです。

一方で、「時間が足りなかった」などのアドバイスも頂いていますので、今後の研修等の充実に繋げていきたいと考えております。

「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2017」が開催され、公共交通政策部が参加しました。

(総合政策局 公共交通政策部 交通計画課)

平成29年10月28日(土)～29日(日)に東洋大学白山キャンパスにて、「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム」が開催されました。本フォーラムは、日常の通院や買い物等が困難といった、いわゆる「くらしの足」の問題を解決するために、当事者、行政職員、研究者、交通事業者、福祉・介護・医療の従事者、NPOなど多くの関係者が集まり、地域を越え、立場を越え、情報交換や議論を行う「場」として、2012年から毎年開催されており、今年で6回目となります。

国土交通省公共交通政策部からは、松本公共交通政策部長がショートスピーチを行い、本年6月に中間とりまとめをした「地域公共交通の活性化および再生の将来像を考える懇談会」の提言内容等について説明しました。またポスターセッションでも、当該提言内容やくらしの足を確保するための地域公共交通ネットワーク形成のポイントについて発表しました(以下参照)。



地域公共交通の活性化・再生に向けて

国土交通省 総合政策局 公共交通政策部



公共交通利用促進
キャラクター「のりしろ」

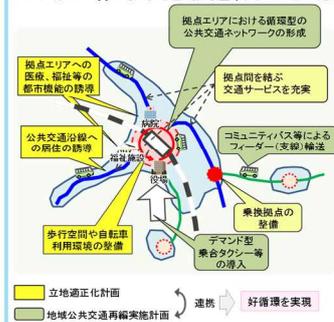
地域公共交通活性化再生法の制定から10年、地域公共交通に正面から取り組む地域が増加する一方、着手できていない地域も多く、地域間の格差が拡大しています。

今後10年で人口動態の変化、技術革新の進展等が予想されますが、まだまだやれることはあります。地域主体で取り組むという枠組の下、地域の実情に応じた「あるべき姿」を目指し、各主体が役割を果たすことが重要です。

地域公共交通の活性化・再生の取組の今後の方向性や各主体に期待される今後の取組について、本年6月にとりまとめられた懇談会の提言をご紹介します。

地域公共交通の活性化及び再生の将来像を考える懇談会 提言概要

まちづくりと一体となった公共交通ネットワークの形成



I. 地域公共交通を活性化・再生するための今後の方向性

1. 地域公共交通ネットワークの形成

- ◆交通圏全体を見据えた再構築
- ◆地域の実情にあったネットワークの形成
- ◆効率的で生産性の高い地域公共交通ネットワークの形成

2. 公共交通の利便性の向上、需要の創出

- ◆情報提供の充実/施設・設備の改善による利便性向上
- ◆データの収集、共有、分析、活用
- ◆地元需要の拡大/域外からの旅客の誘致
- ◆地域密着型の多角化

3. 新たな課題への対応 (運転者不足、車両の老朽化、自動運転、高齢者の移動手段等)

三位一体となって運営されるコミュニティバス (岐阜市)

地域は最大限努力 (明確な収入目標)
地域負担 (運賃・広告) 地域に応じて
15~40%

ルートダイヤ運賃も地域が決定

地域住民
地域が経営感覚を持った運営 (地域住民が計画・運営)

行政(市) 運営の支援
交通事業者 バスの運行

行政が地域の努力を支える
行政負担 (補助金) 地域に応じて
60~85%

バス待合所に外国人案内所機能追加 →



II. 各主体に期待される今後の取組



提言本文は以下(「地域公共交通の活性化及び再生の将来像を考える懇談会」URL)参照
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000062.html

<懇談会構成員>
(幹事) 山内 実樹 一橋大学大学院経営学専攻教授
(委員) 秋地 玲子 ボストンコンサルティンググループ
シニアパートナー兼チーフデジタルオフィサー
藤田 隆雄 名古屋大学大学院経済学研究科教授
大井 高司 大分大学経済学専攻教授
大串 葉子 新潟大学経済学専攻教授
大橋 弘 東京大学大学院経済学研究科教授
岡崎 敏之 東洋大学経済学専攻地域学専攻教授
藤原 雅和 名古屋大学大学院経済学研究科教授
鎌田 実 東京大学大学院新学術領域科学研究科教授
鈴木 文彦 交通ジャーナリスト
住野 敏彦 全日本交通運輸産業労働組合協議会会長
山中 望沙 東京理科大学大学院入学生院/日本会議常務理事
谷口 勝子 東京大学大学院システム情報科学研究科教授
藤沢 久美 シンクタンク・ソフィア代表
吉田 樹 福島大学経済学専攻教授



地域公共交通ネットワークの形成

国土交通省 総合政策局 公共交通政策部



公共交通利用促進
キャラクター「のりぼう」

地域公共交通ネットワークは自治体、交通事業者、住民の皆さんが **みんなで** 形作るものです。

まずは地域の公共交通のビジョンとなる計画「地域公共交通網形成計画」を作成しましょう！

より良い地域の公共交通のビジョンを作るためのポイント

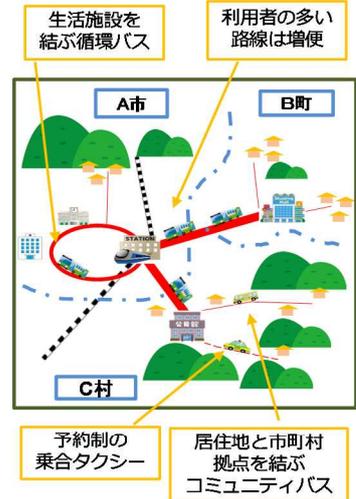
- 現状・問題点を知り、データで裏付けを取りましょう！
(例：お客さんはどこで乗ってどこで降りているか？など)
- 個別の地区や事業ごとに考えるのではなく、地域全体の公共交通ネットワークを考えましょう！
 - * 利用者の移動範囲が隣接自治体にまたがる時は隣接自治体と一緒に考えましょう！
 - * 鉄道・バスなど交通モードの連携・分担を考えましょう！
- まちづくりや観光戦略と連携しましょう！



バスとLRTとのスムーズな乗換環境



観光地を巡る循環バス



ご質問・ご相談は
地方運輸局・運輸支局まで
お気軽にどうぞ！



(地方運輸局連絡先一覧)

北海道運輸局	交通政策部交通企画課	011-290-2721	近畿運輸局	交通政策部交通企画課	06-6949-6409
東北運輸局	交通政策部交通企画課	022-791-7507	中国運輸局	交通政策部交通企画課	082-228-3495
関東運輸局	交通政策部交通企画課	045-211-7209	四国運輸局	交通政策部交通企画課	087-835-6356
北陸信越運輸局	交通政策部交通企画課	025-285-9151	九州運輸局	交通政策部交通企画課	092-472-2315
中部運輸局	交通政策部交通企画課	052-952-8006	沖縄総合事務局	運輸部企画室	098-866-1812

「地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム 2017 in 九州」
「地域公共交通活性化セミナー2017 in 福岡」を開催しました。

(九州運輸局)

九州運輸局では、10月30日(月)～31日(火)アクロス福岡(福岡市中央区)にて、行政・交通関係事業者・一般市民を対象とした地域公共交通のシンポジウム・セミナーを開催しました(シンポジウムは九州地方整備局との共催で今回が9回目)。

九州においては地域公共交通活性化の取組に着手できない自治体も散見されることから、今回のシンポジウムは、九州全体の意識・取組の底上げを図ることを目指して開催し、これまでに参加の無かった自治体等にも参加を呼びかけたところ、14自治体の初参加を含め定員を上回る212人の参加となり、急遽いすの数を増やすために会場レイアウトを変える程の盛況となりました。



会場の様子(30日)



まとめを手にするパネラー陣(30日)

10月30日のシンポジウムは「踏み出す!地域公共交通活性化への道」と題して、名古屋大学 加藤教授や平成筑豊鉄道(株) 河合社長、茨城県日立市、兵庫県宍粟市に講演頂き、コーディネーターに大分大学 大井准教授をお迎えしてパネルディスカッションを実施しました。

31日のセミナーは、これまで国土交通大臣表彰を受賞した九州管内の自治体等を招き、受賞事例の紹介とその後について講演頂きました。参加者からは、タクシーとの棲み分けや取組のコツなどの質問が相次ぐ盛況ぶりでした。



講師への質疑応答(31日)

今回のシンポジウム・セミナーを通じて、実に多くの自治体や関係者が地域公共交通に悩み・疑問・誤解を持っていることが分かりました。そこで九州運輸局では、それらの悩み・疑問・誤解を解消する取組の第一歩として、九州運輸局の体制を強化し、運輸支局と共に関係者に寄り添い、地域に根ざした地域公共交通の維持・活性化策の展開をしっかりとサポートしていくこととしています。

九州全体の公共交通への意識・取組の底上げを図るべく、九州運輸局は今後も様々な取組を続けていきます。

なお、両日の模様は九州運輸局のHPに掲載しています。

シンポジウム：<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/kikaku/file26-7.html>

セミナー：<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/kikaku/file31-26.html>

「地域公共交通シンポジウム in 中部」を開催しました。

(中部運輸局)

中部運輸局では、平成29年11月2日(木)に、東建ホール・丸の内(愛知県名古屋市)において、『地域公共交通シンポジウム in 中部 「^{ネットワーク}網」の崩壊を食い止めるー「公共交通空白時代」の到来に備えるにはー』を開催しました。

今回のシンポジウムでは、

- ① 市町村の境やモードの違いにとらわれず、人の流動を意識した取組の方向性
- ② 「^{ネットワーク}網」の確保のために、各主体が有機的に連携する方法

を明らかにすることを目的としました。

当日は、自治体・事業者など270名を超える方にご参加いただき、大変盛況であったとともに、参加された皆様や運輸局職員で地域公共交通を考える貴重な機会になったものと思います。



1. 開催趣旨

バス路線やタクシー事業の撤退により、「公共交通空白地」の拡大が懸念される中、持続可能な公共交通の確保には、市町村単位で公共交通施策を行うだけでなく、より広域的な視点で、人の流動を踏まえた「交通圏」を意識することが重要となります。

そこで自治体・事業者の別や市町村の境を意識することなく、「幹」から「枝葉」となる交通まで、「^{ネットワーク}網」全体を構築する取組にはどのような意識が必要なのか、考える機会としてシンポジウムを企画しました。

2. 講演

【名古屋大学大学院環境学研究科 教授 加藤 博和 氏】

テーマ「公共交通サービスのスパイラルアップー地域を支える
網(ネットワーク)をしっかりと張るためにー」

市の地域公共交通会議で地域間幹線システムの存続について対策が行われず、システムが廃止になった事例をもとに、地域が主役となって「おでかけ」(移動)を確保する必要性や市町村・協議会の役割についてご講演いただきました。また、地域公共交通網形成計画作成、評価の重要性などについてご説明いただきました。



【福島大学経済経営学類 准教授 吉田 樹 氏】

テーマ『「暮らし」と「交流」を支える地域公共交通網の形成
ー広域路線からラストマイルまで有機的に連携する方略ー』

地方都市圏で交流機会が減少している現状を受けて、市民の「生活」を守り、「交流=おでかけ」の機会をつくるために、公共交通網の「軸」を設定する重要性や生活圏単位でのネットワークの再構築、「拠点」を明確にしたネットワークの形成などについて、多様な事例をもとにご講演いただきました。



【総括】

たくさんの実例を交えご講演いただいたことで、自治体の方に対して、コミバスだけでなく幹線軸を意識した取組の重要性を喚起することができました。

3. パネルディスカッション テーマ「多様な主体・手段による「^{ネットワーク}網」の確保」

パネリスト		『有機的な「連携」に必要な「秘訣」』
設楽町・津具商工会	高橋三郎氏・今泉哲也氏	「協働」・「利便性とコスト」
小豆島町	城博史氏	「議論を重ねる」
福井県	猪嶋宏記氏	『国・県・市町村・交通事業者など関係者同士が、お互い「顔が見える」関係の中で、意見を交わし、共通理解を図る』
遠州鉄道株式会社	米田典弘氏	「（民間と行政の）役割分担の認識と交通手段の提案力と交渉力」
福島大学	吉田准教授	「小さくてもいい。ひとつの作品を作る（小さくてもいいから、まず一緒に手を動かしてみる）」
名古屋大学大学院	加藤教授	「覚悟」

パネルディスカッションでは、様々な主体のパネリストから『有機的な「連携」に必要な「秘訣」』をご披露いただきました。

他の主体・モードについては連携の意識が希薄になることが多い中で、連携の必要性を強く喚起していただきました。



4. 個別相談会

講演による情報提供のみでなく、自治体や事業者の方が抱える具体的な問題に対応すべく個別相談会を実施しました。自治体を中心に15者から交通計画の策定や協議会の運営について相談があり、予定時間を過ぎても熱心な質疑応答が交わされておりました。

会場では、今年度、国土交通大臣表彰を受賞したえちぜん鉄道活性化連携協議会の取組を始め、現在中部運輸局が取り組んでいる主な施策（貨客混載、公共交通の見える化、事業評価など）についてポスターを展示し、講演の合間に多くの方にご覧いただきました。

中部運輸局では、今後も先進事案の発掘・形成に向けた調査や支援等を展開する「みんなの交通応援プロジェクトE x（みんプロE x）」の取組を引き続き推進して参ります。



▽シンポジウムの詳細、資料等については、中部運輸局ホームページに掲載しております。

<https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/index.html#a4>

▽みんなの交通応援プロジェクトE x ホームページ

https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/minpro_ex/index.html



公共交通の先進的な取組を
支援等しています

http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/minpro_ex/

**12月11日に「トークライブ 鉄道が地域の未来を明るくするために」
が開催されます。**

◆「名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター」からのご案内です。◆

ローカル鉄道が各地で廃線の危機に陥る中、鉄道を活かしたまちづくり、むらおこしに取り組み、活気を取り戻しつつある地域があります。一方で、廃線を止めることができず、衰退に歯止めがかからない地域もあります。その違いはなぜ生じるのでしょうか。

今回は、日本中の鉄道に乗り、鉄道を、そして地域を愛し、その姿を伝える「ローカル・ジャーナリスト」田中輝美さんを招き、鉄道の役割と地域活性化との関係について、現在かかわっておられるご活動の状況も交え、大いに語っていただきます。さらに、鉄道や路線バスといったくらしの足を守る活動に日夜奔走している「地域公共交通プロデューサー」加藤博和が加わり、田中さんとの対談を通じて、地方創生の今後についてアツク語り合います。

■ 日時

2017年12月11日（月） 18:00～20:00（終了後、簡単な交流会を開催）

■ 場所

名古屋大学東山キャンパス 環境総合館1階 レクチャーホール
（イベントの趣旨を踏まえ、自家用車でのご来場はご遠慮願います）

■ 参加費

無料（交流会は実費） どなたでもご参加いただけます

■ 出演（敬称略）

ローカル・ジャーナリスト 田中 輝美

■ 司会・対談

地域公共交通プロデューサー 名古屋大学大学院環境学研究科 教授 加藤 博和

■ 主催

名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター

■ 後援

国土交通省中部運輸局（予定）、くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会（予定）

■ 申込方法

下記サイトをご覧ください。

<http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/tanaka.html>

トークライブ 「鉄道が地域の 未来を明るく するために」

趣旨：

全国の鉄道に乗車され、地方の実情に詳しい田中輝美さんをお迎えし、鉄道の役割と地域活性化との関係についてお話をいただくとともに、対談を通じて地域創生の道筋をアツク語り合います。

日時：

2017年12月11日(月)

18:00 ~ 20:00

(終了後、簡単な交流会を開催)

場所：

名古屋大学東山キャンパス
環境総合館1階 レクチャーホール

参加費：無料【交流会は実費】どなたでもご参加いただけます

申込：下記をご参照ください

URL：<http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/tanaka.html>

主催：名古屋大学大学院環境学研究科附属
持続的共発展教育研究センター

後援：国土交通省中部運輸局【予定】
くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会



出演：

ローカル・ジャーナリスト

田中輝美

(島根県浜田市出身)

著書「ローカル鉄道という希望：新しい地域再生、はじまる」が話題になっております

司会・対談：

地域公共交通プロデューサー、
名古屋大学大学院
環境学研究科教授

加藤博和

(岐阜県多治見市出身)



12月15日に「地域公共交通シンポジウム in 四国
～ みんなで考えよう 地域公共交通の未来～」を開催します！（四国運輸局）

四国運輸局では、愛媛大学の後援で、「地域公共交通シンポジウム in 四国～ みんなで考えよう 地域公共交通の未来～」を開催します。

四国では、他の地域と同様、モータリゼーションの進展等により、地域の足を支える公共交通の利用客が減少し、交通事業者単独では維持ができず、特に過疎地ではこれまでに路線の休廃止や減便などが行われ、地域公共交通の衰退が進みました。

そのため、日常生活の移動手段は、マイカーに頼るところが多く、「公共交通機関に乗る機会がほとんどない」という方が多いかと思えます。一方で、まちの中では、鉄道やバスなど公共交通が当たり前のように走っており、地域住民は公共交通の重要性に気づいていないのが実情です。

こうした中、地方公共団体、交通事業者、地域住民など、多様な関係者が集まり、議論を行い、地域住民の移動の足を確保できるように、持続可能な公共交通を作るために頑張っている地域があります。

本シンポジウムでは、有識者の方から地域の公共交通を取り巻く最近の現状等について基調講演を行って頂き、多様な関係者が協働して、地域住民の移動の足を確保するために頑張っている取組を紹介します。

また、後半では、パネルディスカッションを行い、地域公共交通に関する諸課題についての「処方せん」を参加者の皆様と共に考えていきます。

本シンポジウムは、地域に開かれた愛媛大学での開催であり、学生・地域住民など一般の方も参加可能です。本シンポジウムを通じて、少しでも地域にある公共交通について目を向けて頂くきっかけとなればと考えておりますので、多数の参加をお待ちしております。

地域公共交通シンポジウム in 四国
みんなで考えよう
地域公共交通の未来

入場無料

日程 平成29年 12月15日(金)
13:15～17:00(開場12:45)

会場 愛媛大学
総合情報メディアセンター内
メディアホール
定員100名(先着順)

プログラム

開会 祝辞 松山 謙弘氏

基調講演 緑でつなぐ交通まちづくりの実践
松山 謙弘氏(愛媛大学地域政策研究センター)

特別紹介 ICTと人間力による
交通まちづくりの取り組み
谷島 賢一氏(イオンバス株式会社 札幌支店)

特別紹介 過疎地域における
バスを使う文化づくり
長瀬 大輔氏(まちづくり推進センター) 松山 謙弘氏
主賓 小原 登平氏

特別紹介 ニーズに応え続ける地域公共交通
松山 謙弘氏

パネルディスカッション
「ローディネーター」設計 松原 氏(愛媛大学 知事)
「パネリスト」イギリスバス(株)、実業家、
つる 光野(国同経協)

閉会 司会 谷島 賢一氏(イオンバス株式会社) (会場費:3,000円)
会場:愛媛大学 総合情報メディアセンター内 13:00～18:00

申込 申込:平成29年12月8日(金) 申込方法:①愛媛の各地市役所まで②下記まで
お申し込みは先着順です。

お問い合わせ先
国土交通省 四国運輸局 交通政策部 交通企画課
TEL:087-825-7202(1124室)
087-892-4725(1127室)

主催 国土交通省 四国運輸局
後援 愛媛大学 社会共創学部

■ 開催日時

平成29年12月15日(金) 13:15～17:00

■ 場所

愛媛大学(城北キャンパス) 総合情報メディアセンター内 メディアホール
愛媛県松山市文京町3

■ 主催

国土交通省 四国運輸局

■ 後援

愛媛大学 社会共創学部

参加方法など詳細につきましては、四国運輸局HP(平成29年11月13日付けニュースリリース
<http://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/newsrelease/2017/2017-1109-0953-4.html>)をご覧ください。

< 掲 示 板 >

☆ 地域公共交通支援センター

公共交通政策部では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約300事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

<地域公共交通支援センター> <http://koutsu-shien-center.jp/index.html>

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、FAQをご案内しております。

公共交通利用促進キャラクター のりたろう



大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進PRの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- ・移動手段は「ネコ足歩行」
- ・自由に移動できるが、疲れてしまうので 100 歩ごとに休憩が必要
- ・乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて 1 名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【お問い合わせ先】

国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 石橋

〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3（中央合同庁舎3号館3階）

TEL：03-5253-8275（直通）

FAX：03-5253-1513

E-mail: koutsukeikaku_joho@mlit.go.jp

★国土交通省HP（情報発信のページ）

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html



